

事業計画書



事業名	八ヶ崎の森再生整備事業
団体名	松戸里やま応援団 一起の会

1. 事業目的と課題の現状及びその効果

一起の会の主要活動フィールドである八ヶ崎の森は、住宅・警察・消防訓練施設に囲まれた約 9,000 m²の都市樹林地で松戸市指定の保護樹林でもある。5 年間にわたる整備活動で、自然観察や森で楽しめる環境づくりをすすめ、児童・近隣住民にも親しまれるようになった。

最近近隣から日照・落ち葉飛来・景観等での苦情が相次ぐようになり、地権者と住民が交渉し、昨年 11 月業者の手で住宅隣接地域の樹木が大きく伐採され、斜面林部分の大半が丸坊主になってしまった。伐採樹木の丸太処理も不十分で枝葉も残されており、復旧や防災対策が急がれる現状である。

整備管理活動する私達を抜きにした伐採であったが、地権者は「森として残す」意向であり、森の再生整備に協力することとし、地権者・地域住民に納得いただける「森の再生」に取り組むことにした。実施に当たっては、苗木の植栽等地域住民の参加で理解親睦を深めるとともに、完成後も児童・地域住民の自然観察や森の中でのイベントなどで地域の憩いの場として親しまれる森を実現する。

2. 申請理由

都市樹林を守っていくには、地権者・近隣住民の相互理解そして森の整備管理活動が大切である。

一起の会は 5 年間森を整備しながら、地権者の理解を得るとともに地域住民にも枝木処理・道路清掃などのボランティア活動を通し理解をいただいております。今回の森の再生計画では私達がパイプ役として欠かせない。

今回の事業に関し地権者の負担もあるが、植栽の花木調達等で独自性を出すためにも資金を必要とするため、市の助成金制度を活用申請するものです。

3. 事業の内容、実施方法、スケジュール

今回の森の再生整備は 2 年以上の期間を要するもので、初年度に土留め対策や場内の丸太・枝木の処理を行い（地こしらえ）、翌年度から苗木の移植や花木の購入植栽と遊歩道整備にかかる。植栽に当たっては近隣住民や学園児童にも声をかけるイベントとし、地域に親近感を持っていただくとともに「一起の会」だけでなく、松戸里やま応援団グループ全体に協力をお願いし、ボランティア活動が地域に根付くようにしていく。

整備後も地域に親しまれ、森を活用してもらうためのイベントなど住民の意見・市の指導などを仰ぐ。

4. 事業成果の活用と将来展望

都市樹林地はみどりを提供し温暖化防止や憩いの場としての効用が理解されている半面、落ち葉飛来や日照問題、手入れ不十分で景観（暗く鬱蒼としている）を損なうなどへの抵抗がある。今回の伐採地再生整備計画を実現し継続して管理整備することで、明るく親近感の持てる森の一面をお示しすることが出来る。

地域に親しまれる森を目指し、整備事業に近隣住民・児童も参加してもらったり、森の観察会などイベントを多くすることで失われていく「緑の貴重さ」をご理解いただける一助とする。

事業の予算計画書

【収入】

	(自己資金)	金額	積算内訳
申請者	繰越金	67,000円	繰越金、物品販売等から充当 1,500円/年×20人
	年会費	30,000円	
	自己資金合計(a)	97,000円	
市	助成金申請額(b)	100,000円	
	収入合計(c)(a+b)	197,000円	

【助成金申請額(b)チェック項目】

1. 対象となる経費(d)欄の90%以内
2. 1事業あたり10万円以内

【支出】

	項目	金額	積算内訳
交付対象経費	ボランティア保険	12,000円	600円/年×20人
	花、苗木および肥料購入	100,000円	低木苗木50,000 花種5,000 肥料45,000円
	植樹イベント費用	30,000円	チラシ5、手袋2、保安帽20 飲み物3千円
	対象となる経費合計額(d)	142,000円	
その他	遊歩道設置杭およびロープ	40,000円	杭500円×100本、ロープ @100×300mのうち当期使用
	器具賃借料	15,000円	チェーンソー、フェンサー、発電機 刈り払い機等一式
	その他経費合計額(e)	55,000円	
	事業費(f)(d+e)	197,000円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

事業名	たすけあい・よろず相談員制度の必要性調査
団体名	(特活) たすけあいの会 ふれあいネットまつど

1 事業目的と課題の現状及びその効果

目的

- (1) 高齢化、孤立化が進む社会において「自分一人だけで判断・処理出来ない人達に対して、行政手続き等のサポートや福祉・医療の相談にのる事が出来る（総合的なたすけあい・よろず相談員一仮称一の制度が必要とされる事）」を、当法人・NPO 法人（独居者対象活動）・不特定グループ（相談会等）にて、調査する。
- (2) 高齢独居老人・認知症患者・重度障害者等の「判断能力・理解力不足な人」の方々が、「問題発生毎に誰に相談すれば？」と迷っておられる。問題毎の種類・内容・対処法等を調査したい。
- (3) 縦割り行政に即したバラバラな相談体制から窓口を単一化する事に依る社会コスト削減の可能性調査

現状

* 独居老人・認知症患者・重度障害者等の「判断能力・理解力不足な人」が、各種行政書類の対応に困窮している。この方達は、問題の対処法に戸惑いを持ち、問題解決に消極的になりがちで有り、結果機会損失を被っているのでは？

EX：厚生年金調書・各種行政書類・福祉や医療に関する調書や申請書等々

- A 「国民年金・厚生年金保険老齢給付」調査、ねんきん特別便に対する回答票記入に関して、理解力不足に伴う各種相談をうけた。
- B 定額給付金申請手続きに於いても (A) と同様の相談支援要請をうけた。
- C 各種行政組織の「電子化 (IT化)」に伴う「URLや mail」に依るアクセスを要求されつ有る高齢社会にては「その利用頻度や Hard を保有する？」等の環境は厳しい状況である。

効果

- * 此の調査により、対象となっている人々が安心して暮らして行く為の社会的支援体制の中に総合的で一本化された「相談援助活動の必要性」や「たすけあい・よろず相談員 (仮称)」像が明らかになってくる。
- * たすけあいよろず相談員制度は窓口の一本化となり、利用者の軽減負担及び社会的コストの削減に繋がる。
- * 安心して暮らせる生活環境の創造と、将来の超高齢化社会に伴うコミュニティ活動化への推進が見える

2 申請理由

*各種行政関連書類の「内容把握と書面作成」に「戸惑いや諦め？」で、対処しきれない人が、多数に及んでいるのでは?? 此れへの支援・助言を担う「たすけあい・よろず相談員」制度を立ち上げる 為の基礎調査をしたい。

*福祉・医療等をも纏めて（窓口を一本化）対応して欲しい要望に応えたい。

*待ちから攻めへ

**お呼びを待つのでは無く、相談員が定期的に・書類到着情報等、前向きな対応を推進したい。

*従来の申請主義から「定期的戸別訪問」を推進し、情報の把握と対処の時間短縮を推進したい。

*上記（1）の事例「A・B・C」の内容把握とその他要望内容をも含めて、其の分析に依る「たすけあい・よろず相談員」の必要性を確認して、解決策の策定にしたい。

3 事業の内容、実施方法・スケジュール

(1) 事業の内容

①当法人に措ける調査し（面接とアンケート）

②不特定多数者には「たすけあiyoroz相談会」を開催

③NPO法人（独居者を対象とする活動法人）と地区社協等との共同調査をする。

*面談・アンケート調査における内容は検討中で有るも以下の骨子を考えている。

対象相談受付範囲

たすけあiyoroz案件（日常の困っている事・緊急時の同様案件）

各種行政書類・医療機関関連書類や福祉関連等の調査・提出書類

調査事項

相談案件の種類・内容・対処法（従来は?）・要望事項（官・民への）

・困った案件が有りましたか? 「行政面・民間関係（福祉・医療等）・地域支援」

・対処法は? 「身内・ケアマネージャー（ヘルパー）・相談出来るひとは?」

・解決策は? 相手方は相談事項に協力的でしたか? 満足な解を得られたか?

・今後の要望事項!!

・たすけあい・よろず相談員の必要性は??

(2) 実施方法・スケジュール

①利用者・協力者との対面相談（行政書面を主体とした）やアンケート用紙の郵送にて調査

2010年/4～12月 利用者（12回）・協力者（1回）と随時（行政関連）

②市民センター等を会場としてたすけあい・よろず相談会の開催（2回）（面談とアンケート調査）

2010年/6～12月 2回 （市民センター等2地区を予定）

行政評価事務所の支援を得て、現在の対応は?（家族・その他）必要性をも伺う。

③高齢者単独世帯（独居も含む）を対象としてNPO法人・社協との共同調査実施

2010年/4～12月 （対象者50～100人）面談・アンケート

4 事業成果の活用と将来展望

A 成果の活用

調査結果として、どの様なたすけあい・よろず相談員が必要か？が判明する。

* 特定調査（たすけあいの会ふれあいネットまつど・NPO 法人）に対しては、調査から「相談の実行」と推進し、不特定調査には、必要を感じて頂いた人から「相談の実施」を始める。

* 2次調査として、対象区域の拡大（対象区域の拡大—地区社協・NPO 法人・団地・町内会等との共同調査に伴う母集団の拡大）に依るデータの収集と分析の実施、協働事業活動に向けての展開を図りたい。

B 将来展望

* コミュニティー活動への展開

データを基に、対象を広げて「たすけあい・よろず相談員制度」の活動を地域活動として取組みたい。

** 広範な地域取組にあたっては、「総合コーディネーター」等の組織としての総合的活動を推進し、併せて「たすけあい・よろず相談員の制度化」を目指したい。

* たすけあい・よろず相談員制度の推進計画の予定

初年度のニーズを集める	1次調査	調査事業
「社会の必要性」の調査継続	2次調査と協働事業の可能性	調査&協働事業化への推進
コミュニティーの推進	コミュニティー活動の展開	大きな組織・集団等との連携 (社会福祉協議会)

(第6条関係)

事業の予算計画書

[収入]

申請者	(自己資金)	金額	積算内訳
	*年会費	22,000	22人*1000円/人
	自己資金合計 (a)	22,000	
市	助成金申請額 (b)	100,000	
	収入合計 (c) (a+b)	122,000	

[助成金申請額 (b) チェック項目]

- 1 対象となる経費 (d) 欄の90%以内
- 2 1事業あたり10万円以内

[支出]

交付対象経費	項目	金額	積算内訳
	諸謝金	30,000	2人*2回*5,000 (講師・社会福祉士) 1団体 (10,000)
チラシ・パンフ	10,000	500*2回*10円/部	
印刷・製本	20,000	パンフ・チラシの印刷・製本	
郵便	16,000	150*1回*80、50*1回*80	
会場費	2,000	4H/回*2回*250	
データ解析並びに 報告書検討	31,000	用紙100部*10円/部 1人*5H*2回*3,000/H	
その他 (用紙・封筒)	6,000	用紙代 500*20%*10封筒 (200部)・消耗品 (会場資料・飾り花等)	
	対象となる経費合計 (d)	115,000	
その他	スタッフ交通・通信費	7,000	関係者との交渉・折衝に伴う 交通費・通信費等
	その他経費合計額 (e)	7,000	
	事業費 (f) (d+e)	122,000	

3

事業計画書

事業名	小浜屋敷の森 保全育成事業
団体名	松戸里やま応援団「小浜の森の会」

1. 事業目的と課題の現状及びその効果

1. 小浜屋敷の森は投棄ゴミが散在しており、地権者・近隣の悩みである。
2. 地権者も5年ほど樹林内に入っていないとのことで手入れもされておらず、枯れ木・倒木があり、真竹は密生し、樹林の一部は藪の状態で管理作業が必要である。
3. 現在、作業にあたっては会員個人の手持ち道具（ノコギリ・剪定ハサミ・草刈り鎌など）に限られていて不十分なため、整備作業の内容も限定されている。
4. 樹林の整備構想・利用方法は地権者の理解を得ており、整備状況に伴い近隣の一般の方にも参加を呼びかけ、森の特徴を活かした各種イベントの開催が可能である。

2. 申請理由

1. 年会費（1,000円×13名）以外に、安全作業のための各個人の装備や作業における道具・消耗品の購入で、個人負担をかなり必要としている。
2. 交通手段は、基本として公共交通・自転車利用となるため、各種道具を持つての移動が困難である。
3. 整備作業の進捗に伴い、チェーンソー・刈払い機・物置小屋など、当初の作業環境を少しずつ整えていく必要がある。

3. 事業の内容、実施方法、スケジュール

1. 事業の内容、実施方法

- 1) 定例活動を毎月第2金曜日と第4木曜日の2回実施する。そのほか状況に応じ臨時活動を行う。
- 2) ゴミの収集・搬出や、不法投棄防止の啓蒙看板を設置する。
- 3) 樹林内の枯れ木・倒木・下草の整理を行う。
- 4) ピオネストを設置する。
- 5) 樹林内の樹木・植生調査を行い、保存樹木、伐採樹木を区別し、事業目的に沿った森にする。
- 6) 技能講習会・観察会など、会員の知識・技能のレベルアップを図る催しに参加する。

2. スケジュール

- 1) 平成21年9月～平成22年3月：ゴミ・枯れ木・倒木の整備。通路確保のための枝打ち・下草刈り。ピオネストを設置する。
- 2) 平成22年度：樹木・植生調査。伐採・下草刈りなど整備の継続する。

4. 事業成果の活用と将来展望

1. 現在の過繁茂の森の整備により、木漏れ日が差し込み、小鳥が飛来し、昆虫が生息する森に再生し、森本来の機能を回復させる。
2. 他の専門サークルとの交流を図って、大人と子供と一緒に楽しめるイベント開催を企画する。

事業の予算計画書

【収入】

申請者	(自己資金)	金額	積算内訳
	会費 花フェスタ販売売上	28,000 円	年会費 1,000 円×13 名=13,000 円 緑と花のフェスタ売上=15,000 円
	自己資金合計 (a)	28,000 円	
市	助成金申請額 (b)	100,000 円	
	収入合計 (c) (a+b)	128,000 円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の 90%以内
2. 1 事業あたり 10 万円以内

【支出】

	項目	金額	積算内訳
	交付対象経費	作業用具費 等	89,000 円
広報活動費・消耗品費		25,000 円	カーイク/用紙 等 20,000 円 テープ・紐他 文具費 5,000 円
対象となる経費合計額 (d)		114,000 円	
交通費補助費		9,600 円	24 回×2 名×200 円=9,600 円
その他	飲料水補助費	4,400 円	
	その他経費合計額 (e)	14,000 円	
	事業費 (f) (d+e)	128,000 円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

事業計画書

4

事業名	「もったいないツアー」
団体名	松戸市政モニターOB「花草会」

1. 事業目的と課題の現状及びその効果

(目的)

- ・「もったいない運動」を理念や考え方に留めるのではなく、実行可能な活動として展開する
- ・「もったいないツアー」を多くの市民が参加することで、見学から実活動を学んでもらう
- ・「もったいないツアー」で学んだことを自分自身で行動してもらおう
- ・「もったいない」=3R(リサイクル、リユース、リデュース)を徹底する

(効果)

- ・「もったいない運動」が実行動を伴った活動として定着する
- ・多くの市民・団体のツアー参加から、活動が発展する
- ・松戸市民のエコロジー、自然環境保護等の意識が高まる

2. 申請理由

松戸市は、平成19年2月から「もったいない運動」を実施し、市民のエコロジー生活から自然環境保全に関する啓蒙運動を展開している。花草会(市政モニターOB会)では、平成20年4月に「もったいない運動」の参加団体に加入して、その運動を会の活動に取り入れることとした。

この1年間の活動実績は、個人の活動に依存したもので会全体の運動としては、何の実績を残すものは無かった。そこで会全体の活動として、多くの会員やその家族、友人や地域を巻き込んだものとして実施出来るものを企画した。

この企画案の立案に関して市役所関係部門と事前調整の過程で、市の協働提案・助成金事業として申請する方法が今後の運動展開が広がる可能性が高いとのご指摘を得ました。

そこで今回、この企画を会個別の活動に留めるのではなく、広く松戸市民全体の「もったいない運動」として展開する意味で助成金事業として申請することとした。

3. 事業の内容、実施方法、スケジュール

【ツアー内容の概略】

- ・日暮リサイクルセンターの見学(ゴミ・リサイクル)
- ・食品工場の見学(ゴミ処理等)
- ・浄水場の見学(高度浄水処理)

(事業内容)

- ・ツアー企画
- ・ツアーの広報・宣伝
- ・ツアーの実施

(スケジュール)

平成 22 年 4 月: ツアー企画案の確定

平成 22 年 5 月: ツアー企画案の広報・宣伝

平成 22 年 7 月: ツアー事前講演会

平成 22 年 10 月: ツアーの実施

平成 22 年 12 月: 次年度ツアー実施・企画案の検討

4. 事業成果の活用と将来展望

(花草会の活動)

- ・このツアーの企画・実施の過程で会全体の活動が活性化
- ・市民や市民活動団体における知名度が上がり、会員の増強が図れる
- ・「もったいない運動」をしている団体との連携が強まる

(市・市民の活動)

- ・「もったいない運動」が恒常的に活発化する
- ・市民のエコ、自然環境保全に関する意識が高まる
- ・市民と行政の協働するチャンスが増える

事業の予算計画書

【収入】

	(自己資金)	金額	積算内訳
申請者	会費収入 事業収入	68,000円 0円	
	自己資金合計 (a)	68,000円	
市	助成金申請額 (b)	100,000円	
	収入合計 (c) (a+b)	168,000円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の 90%以内
2. 1事業あたり 10万円以内

【支出】

	項目	金額	積算内訳
交付対象経費	諸謝金	20,000円	講師料: @20,000×1回
	広報チラシのデザイン・印刷費	70,000円	デザイン費: 30,000円 印刷費: @20×千部×2回
	マイクバス借用料他	40,000円	1回分、他会場使用料
	対象となる経費合計額 (d)	130,000円	
その他	スタッフ交通通信費	20,000円	@1,000円×4名×5回
	スタッフ事業活動報酬他	18,000円	報酬: @500円×3h×4名×3回
	その他経費合計額 (e)	38,000円	
	事業費 (f) (d+e)	168,000円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

事業名	バリア・バリアフリー体験教室・ まち探検推進事業 (Part 2)
団体名	バリアフリーまつど市民会議

1. 事業の目的と効果及び課題の現状

「バリア・バリアフリー体験教室」は、大人も子どもも一緒に障害のある人やお年寄りといれあい、また“疑似体験”をすることで「新しい発見」・「新しい感動」・「新しい気づき」を実感してもらいます。そして、障害のある人との接し方やお手伝い、サポート方法など“心のバリアフリー”に繋がる動機付けにする活動です。また、「まち探検」にはいろいろありますが、バリアフリーの探検は、まちを歩きながら誰もが安全に安心して暮らすことができるかどうかの目線でチェックをします。また、お年寄りや障害のある人と協働で作業することで様々なバリアや当事者の苦労や不安などを学ぶ場でもあります。そしてそれらを反映した「バリア・バリアフリーマップ」を作成し、広く啓発することを目的にした活動です。以上ふたつの活動は、『誰もが安全・安心に暮らせるまちづくり』への関心を広く市民に広げることが目的とします。

バリアフリーまつど市民会議では、会発足（05年）以来3年、「まち点検」・「バリアマップ」作り、市民祭での「バリア・バリアフリー体験教室」などを続け、本年（09年）は、市民活動助成事業として活動の中心にしています。しかし、これらの取り組みは、短期間で効果を得られるものではなく地道に継続した活動が不可欠です。全市的に見れば“点”の取り組みであり各地区・全市への取り組みに広げることが求められます。

2. 申請理由

超高齢化社会を迎えている現在、安全で安心な「やさしさいっぱい」のまち作りは急務です。また、千葉県では全国に先がけ「障害のある人もない人もともに暮らしやすい千葉県づくり条例」を作りました。「体験教室」と「まち探検」は暮らしやすいまち作りを考え、学ぶ場です。この二つの取り組みは、大変時機にかなっていると考えます。町会や商店会、学校や老人会など様々なグループが、障害当事者とともに気軽に取り組めるようにしていく必要があります。今年度もこの市民活動助成事業の採択を受け活動していますが、これを実行するためには、短期間の活動では効果が得られません。引き続き活動を継続し、内容の充実と深度化を図るべく助成をお願いするものです。

3. 事業の内容、実施方法、スケジュール

08年に作成した「体験教室」「まち探検」普及リーフレット（別添）を活用して以下の取り組みをします。

① 5月

- ・会員と市民参加でプロジェクトを立ち上げ、意見交換会、勉強会を開催し地域住民や障害者の意見を収集する。

② 7月～9月（上半期）

- ・市のバリアフリー事業の進捗も考慮し、「まち探検」を実施する。
- ・「やさしさいっぱいみんなのまち」の活用状況の把握と学習現場での生の意見を収集する。

③ 10月～1月（下半期）

- ・「松戸まつり」への参加。出前「体験教室」を2地区で計画。
（小学校、学童保育、社協まつりなどでの実施を検討中）
- ・「やさしさいっぱいみんなのまちシンポジウム」（仮称）を開催。
冊子の内容の充実を検討し、まとめる。

* 今後の活動を展望し、事業を通してバリアフリーまちづくりリーダーの養成を図る。

4. 事業成果の活用と将来展望

一つ一つの取り組みは、できるかぎり地域の町会、商店会、老人会、障害者団体、個人、有識者、学生および行政、鉄道事業者等の協力を得ながら「ワーキンググループ」を立ち上げ実施して行きます。この活動の中で育ったメンバーが“核”となり自立してこの活動を点から線へ、線から面へと発展させる土台となって行きます。

事業の予算計画書

【収入】

申請者	(自己資金) 会費・寄付	金額	積算内訳
			45,000円
	自己資金合計 (a)	45,000円	
市	助成金申請額 (b)	100,000円	
	収入合計 (c) (a+b)	145,000円	

【支出】

	項目	金額	積算内訳
	交付対象経費	報償費	15,000円
印刷費		20,000円	報告書、チラシなどの印刷
消耗品費		40,000円	材料代 30,000 会議資料用品費 10,000
使用料		24,000円	会場使用料 14,000 運搬車両借上げ 10,000
通信費		20,000円	アンケート・案内の郵送代
保険料		9,000円	行事保険
対象となる経費合計額 (d)		128,000円	
その他	スタッフ飲食費用	5,000円	
	会員外スタッフ交通費	12,000円	@300×40人
	その他経費合計額 (e)	17,000円	
	あ事業費 (f) (d+e)	145,000円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

6

事業計画書

事業名	外出困難者と共に風の中へ
団体名	特定非営利活動法さわやか福祉の会 松戸くらしの助っ人

1. 事業目的と課題の現状及びその効果

松戸市内では、高齢者の増加や障害者の中に車椅子の生活などで、外出する機会を得られない人達が増加しています。

そのような人達と共にリフト付大型バスで屋外に行き、風に吹かれる計画です。

在宅生活ボランティア団体として、協力者が車椅子操作習熟の機会と、外出困難者がどのような思いを持ち、どのように協力者が接すれば良いのか情報を得たいと思います。

2. 申請理由

松戸くらしの助っ人は、在宅生活支援ボランティアとして12年以上にわたり松戸市で活動していますが、活動は協力1時間200円いただく運営費と、正会員費や賛助会費などの会費と寄付金で賄われていますが、ほかの活動を行う資金的余裕はありません。しかし、外出困難者から外出の機会の提供を求める声はとて多く、松戸市からの補助金を得て、是非外出困難者の希望に沿いたいと思います。

3. 事業の内容、実施方法、スケジュール

車椅子のまま乗降できるリフト付大型バスを使い、車椅子や障害のある人に外の風に吹かれてもらう。

流通経済大学新松戸校の前にリフト付バスを待機させ、協力者が自宅からバスに移送し、帰りも同じ方法をとります。

バス移動中の車椅子使用者には、常に担当者がついてトイレや食事やその他の行動を共にします。

実施日：平成22年10月予定

4. 事業成果の活用と将来展望

在宅生活支援ボランティア活動をより多くの人に知ってもらう事で、松戸市が市民の助け合いを通して、より住みやすい町になると信じています。

介護保険や公的サービスだけでは、この町に住み続けるのに困難を感じている人は多く、私たちの様なボランティア団体の活動の重要性は増すことは有っても、減じることは無いと確信しています。

事業の予算計画書

【収入】

	(自己資金)	金額	積算内訳
申請者	参加費 協力者を含め全員から	105,000円	3.5人×@3,000 (協力者 9名)
	自己資金合計 (a)	105,000円	
市	助成金申請額 (b)	100,000円	
	収入合計 (c) (a+b)	205,000円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の90%以内
2. 1事業あたり10万円以内

【支出】

	項目	金額	積算内訳
交付対象経費	リフト付大型バス	105,000円	一日賃借料
	高速道路・入園料	25,000円	
	通信費	12,000円	活動資料や募集案内を送付の為のメール代
	対象となる経費合計額 (d)	142,000円	
その他	食事代	63,000円	35人かける@1,800 (うち協力者9名を含む)
		円	
	その他経費合計額 (e)	63,000円	
	事業費 (f) (d+e)	205,000円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

事業計画書

7

事業名	「手と手ではなそう」
団体名	NPO 法人 子どもっとまつど

1. 事業目的と課題の現状及びその効果

人と人とのつながりが希薄になっている現在、障害や病気に対する理解も乏しくなっています。子どものころからの様々な人との出会いが、想像力・表現力・豊かなコミュニケーション能力を養います。なかでも文化と芸術の世界は、障害者と健常者の垣根を低くさせる場でもあります。障害者と健常者で取り組む表現者のとの出会いが、人と人が自然に関われる環境をつくり、誰もが生き生きと暮らしてゆける社会につながる第一歩と考えます。

2. 申請理由

病気や障害者になっても、将来を安心して生き生きと暮らしていけるためには、地域とのつながりが一番大切だと思います。そのためには、本事業へのより多くの方々の参加が望まれます。

行政の支援があることで、市民が安心して本事業へ参加し多くの理解者が増えることと考えます。

3. 事業の内容、実施方法、スケジュール

今回は、NPO 法人子どもっとまつどが主催団体となり、幼児の親子から小学生を対象に、日本で唯一ろう者(耳が聞こえない人)と聴者(聞こえる人)が協力して公演活動を行っている人形劇団、「デフ・パペットシアター・ひとみ」から講師を招きワークショップと手話講座を市内の市民センターで開催します。

4月 講師打ち合わせ

会場決定

5月 広報開始

7月下旬 ワークショップ「人形劇と手話とコミュニケーション」

～人形劇の表現を使って～

「手と手でお話しよう」「身体ワークショップ」実施

8月 夏休み「手話教室」2回実施

11月 発表会

4. 事業成果の活用と将来展望

今回の事業を契機に、いろいろな表現活動を行っている障害者と子どもたちとの出会いの場を作っていきたいと考えています。継続的に障害者と健常者との交流の場をもうけることで、お互いに理解が深まり障害のあるなしにかかわらず誰もが生き生きと暮らせる社会につながることを思います。

事業の予算計画書

【収入】

	(自己資金)	金額	積算内訳
申請者	参加費	35,000 円	500 円×30 人×1 回 (ワークショップ) 500 円×20 人×2 回 (教室)
	自己資金合計 (a)	35,000 円	
市	助成金申請額 (b)	100,000 円	
収入合計 (c) (a+b)		135,000 円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の 90%以内
2. 1 事業あたり 10 万円以内

【支出】

	項目	金額	積算内訳
交付対象経費	講師謝金	90,000 円	60,000 円×1 人×1 回 (ワークショップ) 10,000 円×1 人×2 回 (教室) 5,000 円×1 人×2 回 (教室助手)
	広報宣伝費	25,000 円	用紙代 5,000 円 印刷代 5 円×3200 枚 ポスター 80 円×50 枚
	テキスト印刷費	20,000 円	200 円×100 部
	対象となる経費合計額 (d)	135,000 円	
その他	交流会費	円	
		円	
	その他経費合計額 (e)	円	
事業費 (f) (d+e)		135,000 円	

事業計画書



事業名	子育ての根っこを育てよう！ 親子広場「風の子ルーム」
団体名	NPO 法人 風の子サークル

1. 事業目的と課題の現状・その効果

現代の子育て環境では育児雑誌が氾濫し、インターネットやテレビなど、育児情報も溢れかえっています。その中で母親は子育てのささいな疑問などを誰に聞いていいのかわからず、何を信じればいいのか迷い、悩んでいます。また、乳幼児を持つ母親は、睡眠不足、ひとりになれる時間がないなど、子どもがいることでストレスがたまり、子育てに煮詰まったり、マイナス思考になりがちです。

そこで、気軽に集まって、同じ子育て仲間、子育ての先輩と情報を交換したり、ネットワーク作りが出来る場を提供したいと思います。子どもがいるからこそその人間性スキルアップを目指し、利用者同士のつながりを強めることで、孤独ではない地域の中の子育てのすばらしさ、楽しさを実感してもらうことができます。地域に根差した子育て支援をしていくことで、地域を巻き込んだ子育て環境を作っていきたいと思っています。

2. 申請理由

育児期、特に大変なのは0～3才児です。このいちばん成長の著しい時期には年齢、月齢に合わせた、遊び情報、学びの場が必要です。しかし資金不足のため、年齢に合わせたきめ細やかな対応には限界がありました。助成を得られることで、その年齢の子どもと親に合わせた専門的な講師を招いた多様な講座、イベントの企画が出来ます。創立以来の風の子サークル活動（母の勉強会、親子遊びなど）で培ってきた子育てを楽しむノウハウを、広く地域の親子に伝えるため、その活動の一部を取り入れながらやりたいと思っています。

3. 事業の内容、実施方法、スケジュール

毎週火・木曜の親子広場の活動の他、月1～2回、定期的に年間を通して以下の活動をする。

0才、1才、2～3才児親子のグループを作る。（各10組程度）

<内 容>

- ・わらべうたなどの親子ふれあい遊び、集団遊び
- ・子育てに関する勉強会「絵本講座」、「保険師さんによる健康講座」など
- ・リトミック
- ・座談会「子育てする力を高めよう！」「私たち親子で作る上げるイベント」など
- ・参加者に企画してもらおうお楽しみ会など

4. 事業成果の活用と将来展望

- ・新松戸地域で活動する子育て支援団体と横のつながりを作り、地域、子育て支援者、子育て世代に向けてそれぞれがどんな活動をしているか周知してもらおうイベントの開催。
 - ・地域の民生委員さんなどを通して、地域の子育て事情の把握、ひろばを活用した協力など。
- これらの活動を通して、子育て世代への援助だけでなく、それを支える民間の子育て支援団体への理解と支援が大事だということをアピールしていき、それにより活動の幅を広げ、それぞれの地域の活発な支援活動へとつなげていきたい。それは子どもたちが松戸市で成長してからも、継続的な「子育てコミュニケーションツール」になると思います。

事業の予算計画書

【収入】

	(自己資金) 参加会費	金額	積算内訳
申請者		60,000 円	@100* 30 人*20 回
	自己資金合計 (a)	60,000 円	
市	助成金申請額 (b)	100,000 円	
	収入合計 (c) (a+b)	160,000 円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の90%以内
2. 1 事業あたり 10 万円以内

【支出】

	項目	金額	積算内訳
交付対象経費	講師謝礼	120,000 円	@5,000*8回*3 クラス
	広報チラシの印刷代	20,000 円	100部*10円*20回
	消耗品費	5,000 円	折り紙、画用紙、布など
	対象となる経費合計額 (d)	145,000 円	
その他	スタッフ飲食費用	5,000 円	
	雑 費	10,000 円	講座受付用電話代、など
	その他経費合計額 (e)	15,000 円	
	事業費 (f) (d+e)	160,000 円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

事業計画書

9

事業名	生活に役立つ「暮らしとお金の」 セミナーと相談会
団体名	松戸生活やくだちたい

1. 事業目的と課題の現状及びその効果

人生80歳超の時代、「長生きを前提にした生活設計」が必要不可欠ですが、社会制度が充実する一方で年金・医療・介護の費用や給付は複雑となり、生活設計が難しくなってきました。松戸生活やくだちたいは、生活に夢と目標を持っていて「暮らしとお金」の設計の知識と手段が必要な人に、啓発活動を通して夢と目標の実現をサポートしています。

来年度は、松戸市で約10万人いる50～64歳の今会社で暮らしている人＝まもなく行政を訪れるであろう人を対象に、「日常の家計管理」を切り口として住宅ローンなどを含めた資産・負債管理、老後の生活設計、年金・仕事と生活のバランス、医療・保険など病気・事故への備え、相続についてセミナーを開催し、質問に答える形で相談会を計画しています。

このことが市民自ら考え・具体的に行動することへの支援となり、最終的に「暮らしとお金」の自己解決能力の向上が期待できると思います。

2. 申請理由

生活設計の三大要素は、「生きがい」「健康」「経済（家計）」と言われていますが、この「経済（家計）＝暮らしとお金」について、行政機関が実施するものを除き、中立的な立場からの啓発講座や安心して相談できる相談会が非常に少ない現状にあります。

私たち「松戸生活やくだちたい」は、「生活設計・金融・不動産・税金・保険・相続/事業継承」などについての幅広い知識と経験を持つ、松戸在住・勤務のFP（ファイナンシャル・プランナー）で構成されており、中立的な立場から活動できると考えています。

3. 事業の内容、実施方法、スケジュール

セミナーと相談会を年間3回、テーマは別協議の上で進めます。

- ① 平成22年07月 松戸市民劇場 松戸市民 セミナーと相談会 午前・午後
- ② " 11月 松戸市民劇場 松戸市民 セミナーと相談会 午前・午後
- ③ 平成23年01月 松戸市民劇場 松戸市民 セミナーと相談会 午前・午後

4. 事業成果の活用と将来展望

今回の松戸市の助成制度利用で、活動するためのやり方・進め方を身につけ、市民から期待される「お金の暮らし」の中立的なセミナーと相談の窓口になっていきたいと考えています。このために行政や民間団体が行う各種啓発事業に出前講座・講師派遣で連携を行っていきます。

将来的には、「ワンストップ」機能を持つ総合相談窓口として、情報と支援を必要としている人に、必要なときに必要な情報を提供できる体制作りを目指し、生活者の自助努力による生活改善を支援し、住みよい街づくりを目指していきたいと考えています。

事業の予算計画書

【収入】

	(自己資金)	金額	積算内訳
申請者	参加費(セミナーと相談会)	120,000円	@2,000*20人*3回
	寄付金	24,000円	@1,000*8人*3回
	自己資金合計(a)	144,000円	
市	助成金申請額(b)	100,000円	
収入合計(c)(a+b)		244,000円	

【助成金申請額(b)チェック項目】

1. 対象となる経費(d)欄の90%以内
2. 1事業あたり10万円以内

【支出】

	項目	金額	積算内訳
交付対象経費	広報チラシ印刷	48,000円	@1.6*10,000部*3回
	広報チラシ配布	75,000円	@2.5*10,000部*3回
	広告	60,000円	@20,000円*3回
	会場費	16,200円	@5,400*3回
	講師代・資料代	37,500円	@2,500*5人*3回
	通信費・予備費	4,300円	
	対象となる経費合計額(d)	241,000円	
その他	打合せ会議費・交通費	3,000円	@1,000*3回
	その他経費合計額(e)	3,000円	
事業費(f)(d+e)		244,000円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

事業計画書

10

事業名	あなたのまち カラーウォッチング事業
団体名	景観色彩を考える会 まつど

1. 事業目的と課題の現状及びその効果

私達はこれまで、公共の色彩のあり方について、ウォッチングやシュミレーションなどを通じて勉強をし、松戸市民に発信してきました。

一方、国では景観法が施行され、松戸市では平成 21 年 3 月に景観基本計画を策定し、平成 21.22 年の 2 カ年で、計画と条例を整備する段階へ景観行政が大きく進められる状況になってきました。

この計画に市民の声が反映されてこそ、松戸らしい景観計画になると考えます。市民自らが市民への啓発を担っていくことは、市民・事業者・行政の理解と合意を作る上で、大変有効と考えるものです。

2. 申請理由

私達はこの事業で、松戸市の景観基本計画の内容を学びながら、「色」を切り口にまちを見直す取り組みを実施します。ウォッチングは「意識して見る」「気付く」ということで大変有力な手法です。そして、広く市民の参加を呼びかけ、ワークショップを通して意識化をします。また、専門家の協力も欠かせません。

以上の取り組みは通常の予算では不足しますので、助成金の交付をお願いするものです。

3. 事業の内容、実施方法、スケジュール

- ・ 2010 年 7 月 16 日(色の日)(予定) 松戸市眺望景観ポイントのバスツアー実施
- ・ 2010 年 11 月 16 日(いい色の日)(予定) わが街 カラーウォッチングを実施
- ・ 2011 年 2 月 16 日(いい色の日)(予定) 今後を展望する勉強会を実施

※ 町会などと協働を追求して進めます。

※ カラーウォッチング・ワークショップの参加を広く市民に呼びかけ、
景観色彩レポート「ViewPoint」にまとめます

※以上 会の月例会で企画を具体化しながら進めます。

4. 事業成果の活用と将来展望

以上の取り組みを通して、カラーウォッチングを市民が、各地域で気軽に取り組むことができるという教訓が生まれます。景観色彩レポートはカラーウォッチング活動の生きたマニュアルとなります。今後の活動の自立に向け、工夫と努力を重ねていきます。

事業の予算計画書

【収入】

申請者	(自己資金) 会費	金額	積算内訳
			24.000 円
	自己資金合計 (a)	24.000 円	
市	助成金申請額 (b)	100.000 円	
収入合計 (c) (a + b)		124.000 円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の 90%以内
2. 1 事業あたり 10 万円以内

【支出】

交付対象経費	項目	金額	積算内訳
		助言者謝礼	30.000 円
	広報チラシの作成及びレポートの印刷	25.000 円	チラシ 500 枚×10 円=5.000 レポート 10.000 円(2 回)
	会場使用料 バス借上げ 通信費	59.000 円	バス借上げ 50.000 円 会場使用料 5.000 円 通信費(切手等) 4.000 円
	対象となる経費合計額 (d)	114.000 円	
その他	スタッフ等飲食費	7.000 円	お茶代
	スタッフ等 交通費	3.000 円	資料収集等
	その他経費合計額 (e)	10.000 円	
事業費 (f) (d + e)		124.000 円	

事業計画書

事業名	手作り甲冑普及事業
団体名	松戸手作り甲冑愛好会

1. 事業目的と課題の現状及びその効果

昨年（7月・8月）、今年（6月・7月）と手作り甲冑教室を2回行った。

手作りで素晴らしい甲冑が制作できる事の喜びと1日7時間半、16回の制作期間を通して参加者相互の協調性ができ親睦も多いに深まった。

今後、積極的にイベントを行い市民の皆様を知って頂き、松戸市の観光のお役に立つべく活動していきたいと考えている。

2. 申請理由

甲冑作りは作業工程が緻密で複雑かつ根気の要る作業である。

立ち上げ者はまだまだ未熟なため、館山から先生に来ていただき教えを請わねばならず、宿泊費・交通費・謝礼等がかかり、このため手作り甲冑制作の参加者の負担がかさむのが現状である。

助成金で参加者の負担を少しでも軽減し、又、イベントを行う際の資金の一部として助成して頂きたいと考えている。

3. 事業の内容、実施方法、スケジュール

戸定が丘歴史公園内の松雲亭で、市民を対象にした「手作り甲冑教室」を当面は年1回（週2回・2ヶ月）合計16回行い、期間内に甲冑を完成させる。

こうして甲冑の両数を増やし、松戸まつりや他のイベントに甲冑行列、着付け体験等を行うなど活動を継続していく。

又、松戸市内以外の甲冑イベントとの交流も図り、親睦を深めていく。

4. 事業成果の活用と将来展望

兜・甲冑のミニ、子供、大人、各々の材料費は参加者に負担してもらい、利益は考えずに運営し、松戸市の観光促進の一端を担っていきたい。

手作り甲冑教室やイベントを通じて手作り甲冑の技術が継承され、いずれは甲冑教室が松戸市内数カ所で開かれるよう指導者育成にも努めたい。

会員が講師となることで講師費用が削減され、将来は材料費のみで甲冑が制作可能となるようにして制作者と甲冑の両数を増やし、松戸まつりの甲冑行列などの祭に他から甲冑を借りずに行うことができるようにしていく。

事業の予算計画書

【収入】

申請者	(自己資金)	金額	積算内訳
	会員年会費	24,000 円	@ 10人×2,400 円
受講料会員負担金	56,000 円		
	自己資金合計 (a)	80,000 円	
市	助成金申請額 (b)	100,000 円	
	収入合計 (c) (a+b)	180,000 円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 額の90%以内
2. 1事業当たり10万円以内

【支出】

	項目	金額	積算内訳
交付対象経費	講師謝礼金	160,000 円	@ 10,000 × 16回
	材料費 (愛好会持ち分)	15,000 円	紙用ボンド、ニスその他
		対象となる経費合計額 (d)	175,000 円
その他	愛好会消耗品費	5,000 円	
	その他経費合計額 (e)	5,000 円	
	事業費 (f) (d+e)	180,000 円	

事業計画書

12

事業名	芸術による認知症予防 及び 進行抑制の為の事業と、 子どもの豊かな感性を育む為の事業
団体名	クリニカルアートをひろげる会

1. 事業目的と課題の現状及びその効果

事業目的

- ① 認知症の症状で悩み苦しむ要介護者や、それを支える家族が、地元で気軽に認知症の予防、抑制効果があるとされるクリニカルアートをうけられる環境を作ること。
- ② 地域の人々に、認知症の予防や進行抑制に効果があるとされるクリニカルアートという芸術療法があるという事を知っていただく事。
- ③ 子どもの発想力を伸ばしたり、感性を豊かにし、心の安定に有効とされるクリニカルアートを子ども達にも提供し、情操教育や感性教育に貢献する事。
- ④ 将来的に、多動や不登校など、問題を抱える子どもとその親に対して、クリニカルアートを提供し、オンリーワンの存在としての自己を発見していただく機会をつくる事。

課題の現状

①について

松戸市では、常盤平団地における高齢者の孤独死などが報道され、注目を浴びた。

目前に迫った超高齢化社会においては、地域社会として超高齢化社会を支える町づくりは急務である。

我が国の認知症の高齢者の数は、現在 200 万人を超えるといわれており、20 年後には 1.5 倍から 2 倍に近い 350 万人になると言われている。

ここ、松戸市においても昨年度、介護保険要介護・要支援認定者数 12,000 人中、約半数の方が認知症の症状がある方であり、そのうち、約 3 割の方に徘徊等の行動障害が見られているとされる。松戸市では、認知症サポーター養成講座を行うなど、積極的に認知症の高齢者対策にのりだしている。(松戸市役所ホームページ 松戸市版 認知症を知る一年より)

クリニカルアートは認知症の予防や進行抑制の為に編み出された芸術療法である。

この療法を認知症の高齢者が受けられる場所は、直近では、東京御茶ノ水である。

車椅子を必要とするなど、多くの認知症高齢者は身体的な問題から、公共の交通機関を利用して御茶ノ水まで行く事が困難であり、また身体的なマヒなどない認知症高齢者は徘徊等の観点から十分な見守りが必要で、家族等の介護者が認知症高齢者を御茶ノ水まで連れて行く事も、やはり困難が大きい。

近くに気軽に受けられる場所が無い為、クリニカルアートを受ける事を断念せざるを得ない場合が多い。

②について

多くの芸術療法が医療機関や介護施設でここ数年、注目されているが、「クリニカルアート」もまた数ある芸術療法の一つである。

この芸術療法は、報道番組や新聞等で取り上げられる事もあり、出版物も出てはいるが、まだまだ認知度が低く、導入されている一部の医療機関、大学での研究などで行われているが、現実には一般にはそれほど知られていない。

クリニカルアートによる芸術療法は行政が主体となって積極的に行われている地域も存在(下記※参照)するが、ここ松戸市ではクリニカルアート(臨床美術)という芸術療法を知っている人は、殆どいないのが現状である。

(※参照：自治体行政による取り組みの例。

長野県諏訪市 地域福祉計画 平成 21 年度～25 年度 ダイジェスト版 16 頁には、

「現況」として、『市が開催した資格取得講座で育成した准臨床美術士のボランティア団体「SUWART」を指導者として介護予防教室や地区サロン等への出前講座を開催、また保育士研修を行い、一部の園で芸術保育を実施』とある。

また、「計画」としては、『介護予防教室「脳イキキ教室」や地区サロン等への出前講座の拡充を図り、全保育園で芸術保育の保育現場への取り組みを進める』と明記されている。

平成 21 年 3 月発行 編集：諏訪市健康福祉部社会福祉課

〒392-8511 諏訪市高島一丁目 22 番 30 号 電話 (0266) 52-4141

http://www.city.suwa.lg.jp/web/kikaku/suwakeikaku/data/20_tikifukusi_digest.pdf

より一部抜粋)

③について

次世代を担う子ども達の教育は、どちらかといえば優劣を競う「左脳教育」に偏りがちである。

美術教育においても出来あがった作品に対し、評価が当然行われる。

上手い、下手といった区別が行われてしまう結果、下手と評価をうけた子どもは美術に対し、苦手意識をもつことになる。結果、美術が嫌いな子どもも現れることに繋がっているのは残念な事である。

(但し当会は、左脳型の教育の意義を否定しているわけでは決していない。)

感性や情操をつかさどる「右脳型」の美術教育では、上手い、下手の評価は存在しない。

そのような美術教育を受ける機会がなかなか得られないのは残念な事である。

④について

学習障害や多動、不登校など、問題行動を指摘される子どもが増え、学校教育の中では学級崩壊などが問題視されるようになってきている。

小学校の教師が、心の病などで通院や休職をする度に、現場の児童や保護者からは、しばしば「犯人探し」が行われ、犯人として名指しされる特定の多動などの症状を抱える児童と、その保護者は、行き場のない状態に追い込まれている。

以上により、私が活動したいと思っているクリニカルアートの需要は、地域社会において少なからぬものがあると思われる。

その効果

数ある芸術療法の中に、美術の専門家が編み出した臨床美術（クリニカルアート）がある。

既に脳神経外科医師による認知症進行抑制、予防の効果が認められている。

私が地域活動の中で、クリニカルアートを行う事で効果があげられる事をここに述べる事とする。

- ① これまで東京の御茶ノ水まで行かなければ受けられなかったクリニカルアートが、身近な地域社会で受けられるようになる。
身近な地域社会で行われる事で、クリニカルアートによる右脳に対する働きかけを行う機会が増える。
認知症予防の為の様々な取り組みの中に、地域住民の新たな選択肢が増える事になる。
- ② 講演会やワークショップなどのイベントを通して、様々な認知症予防の方法がある中に、造形活動を楽しみながら行うクリニカルアートというものもあるという事を、多くの方に知っていただける機会が設けられる。
- ③ 従来行われている左脳を主につかって行う造形美術ではなく、右脳を使って行う造形美術では、本人のひらめきや感性など、その人ならではの個性が大切にされる。学校教育では当たり前のようにしている「評価」は左脳世界の美術であり、右脳教育としての美術では作品に上手、下手の評価を持ち込む事が無い。クリニカルアートを体験する事で、創作する事の楽しさを体感でき、芸術活動ならではの感性教育、情操教育の機会が増える。
- ④ 美術造形活動は本来、自分自身の感性を形に表す作業であり、出来あがった作品は、その人自身であるともいえる。クリニカルアートを通して、自分自身が、大切な価値のあるオンリーワンの存在であり、個性を持った人間であるという事を再発見する事で、傷ついた心の回復や、自分自身への自信の回復が期待できる。

2. 申請理由

- ① クリニカルアートを受ける事を必要としている人達に、それを受けやすい参加費用で受けられる環境を作りたい。

身体に障害がある方でも行きやすい、身近な公共施設等でクリニカルアートを受けられる環境を作りたい。

- ② 臨床美術士は、専門の教育を受けたスキルを持っており、それに対する謝礼があってもよいと考える。

活動を行うにあたっては、通信費や交通費等の個人負担もあり、実費相当の謝礼をもらう事で、息の長い活動として継続させていきたい。

会員が自腹を切らずに活動を続ける事ができれば、息の長い安定した活動とする事ができる。

上記の理由により、これから本格的な活動を始めるにスタートラインにだって、報償費をはじめ、画材などの消耗品費、認知症予防の為にクリニカルアートに参加下さる受益者や、提供者である当会メンバーが安心して様々なイベントを実行する為に保険料など、予想される費用に対し、援助をうけたい。

3. 事業の内容、実施方法、スケジュール

事業の内容

1. 地域活動・・・受益者参加型プログラム

①作品展・展示会 (年1回)

②講演会活動 および ミニワークショップ (右脳を使うアナログ画体験)

・講演会 (年2回)

・ワークショップ (年3回)

③参加型実践プログラム

・高齢者向け・・・ 認知症予防プログラム 又は認知症抑制プログラム (年12回)

・子ども向け・・・ 感性や情操を豊かにする右脳アート制作 (年2回)

2. 子ども団体プログラム・・・子ども団体などの依頼または交渉により、子ども団体の主催するイベントなどに参加して行う。

①東部こどもまつり (年1回)

②東部ミニこどもまつり (年2回)

3. 高齢者施設プログラム・・・介護老人保健施設や、特別養護老人ホーム、グループホーム、認知症の改善に力を入れている医療機関などの施設内において、入居者や患者を対象 (年12回) としてプログラムを行う。

実施方法

1. 地域活動

(受益者参加型プログラム)

1. 作品展・展示会

2. 講演会活動

ミニワークショップ

(右脳を使うアナログ画
体験)

3. 参加型実践プログラム

・高齢者向け

・子ども向け

①公共施設や高齢者施設などの会場などを利用し、作品展を行う。

②広く「臨床カルアート」の効果や、楽しさを知って頂く為に、講演会やワークショップを積極的に行う。(講演会やワークショップは参加費無料で行う予定)

③希望する人に会場に来ていただいて気軽に参加できる、参加型実践の機会を設ける。プログラムの内容や対象によって、材料費などに充てる為に、参加費をいただく方向で計画。(初年度は、1回500円から1000円程度を設定。材料費は制作内容によって異なる。)

2. 子ども団体プログラム

①東部こどもまつり 年1回 参加

例年参加予定。

石や新聞紙、粘土など、年度ごとに題材を変え、オブジェや置物等の立体造形の制作。

(※東部こどもまつり・・・松戸市立梨香台小学校体育館で毎年1回、10月頃に行われる地域の子どもの為のお祭り。歴史は古く昭和50年代より開催。梨香台小学校卒業生の親と、現役児童保護者が協力して行っている。主催は「東部こどもまつり 本部」)

②東部ミニこどもまつり 年2回 参加

夏季に「暑中見舞い葉書」を、冬季には「クリスマスカード」または「年賀状」の制作を提供し、児童や保護者と制作する。

(※東部ミニこどもまつり・・・松戸市立梨香台小学校体育館で学校週5日制導入時、「東部こどもまつり本部」が土曜日の子どもの居場所づくりの為に企画運営をはじめた活動。毎月第一、第三土曜日、午前中に実施。)

1. 東部こどもまつり

2. 東部ミニこどもまつり

3. 高齢者施設プログラム

地域の施設などで入居者対象に、毎月クリニカルアートの実践を行う。

初年度の活動であり、臨床美術士の人数が比較的少なくても対応が可能な、認知症予防プログラムからの導入を検討している。

活動状況や、施設担当者との話し合いで、認知症予防プログラムから認知症進行抑制プログラムへ変更する場合もある。

スケジュール

スケジュール (2009年9月末での計画)		
月	会の活動	企画 イベント
4月	本格活動始動 地域活動 高齢者施設プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・総会 ・講演会・ワークショップ ・参加型実践プログラム 高齢者向け 認知症予防プログラム ・高齢者施設内での認知症予防プログラム実施
5月	地域活動 高齢者施設プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・参加型実践プログラム 高齢者向け 認知症予防プログラム ・高齢者施設内での認知症予防プログラム実施
6月	地域活動 高齢者施設プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・参加型実践プログラム 高齢者向け 認知症予防プログラム ・高齢者施設内での認知症予防プログラム実施
7月	地域活動 子ども団体プログラム 高齢者施設プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・参加型実践プログラム 高齢者向け 認知症予防プログラム ・東部ミニ子どもまつり参加 梨香台小学校体育館で第1又は第3土曜日に、暑中見舞いの制作を提供 ・高齢者施設内での認知症予防プログラム実施
8月	地域活動 高齢者施設プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・参加型実践プログラム 高齢者向け 認知症予防プログラム ・参加型実践プログラム 子ども向け 感性アート制作 ・ミニワークショップ開催 ・高齢者施設内での認知症予防プログラム実施
9月	地域活動 高齢者施設プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・参加型実践プログラム 高齢者向け 認知症予防プログラム ・高齢者施設内での認知症予防プログラム実施
10月	地域活動 子ども団体プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・参加型実践プログラム 高齢者向け 認知症予防プログラム ・東部子どもまつり参加。梨香台小学校体育館内で、子ども向け立体造形プログラムを提供。

	高齢者施設プログラム	・高齢者施設内での認知症予防プログラム実施
11月	地域活動	・参加型実践プログラム 高齢者向け 認知症予防プログラム ・参加型実践プログラム 子ども向け 感性アート制作 ・作品展・展示会 ・講演会・ミニワークショップ
	高齢者施設プログラム	・高齢者施設内での認知症予防プログラム実施
12月	地域活動	・参加型実践プログラム 高齢者向け 認知症予防プログラム
	子ども団体プログラム	・東部ミニこどもまつり参加 梨香台小学校体育館で第1又は第3土曜日に、年賀状又はクリスマスカードの制作を提供
	高齢者施設プログラム	・高齢者施設内での認知症予防プログラム実施
1月	地域活動	・参加型実践プログラム 高齢者向け 認知症予防プログラム
	高齢者施設プログラム	・高齢者施設内での認知症予防プログラム実施
2月	地域活動	・参加型実践プログラム 高齢者向け 認知症予防プログラム
	高齢者施設プログラム	・高齢者施設内での認知症予防プログラム実施
3月	地域活動	・参加型実践プログラム 高齢者向け 認知症予防プログラム
	高齢者施設プログラム	・高齢者施設内での認知症予防プログラム実施

4. 事業成果の活用と将来展望

事業成果の活用

- ・ 症状を持つ認知症要介護者と、それを支えるご家族（介護者）が、希望を持って明るく生きていけるお手伝いができるような、地域サロンのような活動となる事を目指す。

どのような症状をもつ人であっても、人である限り、生きている限り、人としての誇りを大切に生きていけるよう、その方に寄り添って、芸術を通して住みよい街を作っていきたい。決して、認知症患者は「どうせ何もわからない」「本人は気楽でいい」わけではない。

既に国内の認知症高齢者数が200万人を越え、20年後には350万人になるといわれている。その350万人の認知症高齢者を介護する家族も増加するのである。

少子化で貴重な労働者の数が減少していく事が確実であるのに、介護の為に社会を支える労働者が仕事を辞めて介護に専念しなければならないような事態も予想される。（すでにそのような介護者は存在している）将来を見据え、認知症の予防啓発活動、認知症の進行抑制に真剣に取り組んでいきたい。

- ・ 未来を担う子ども達に、左脳に頼って写實的に描く方法ではなく、見た物の印象やその時の感情を自由な色と形で表現することで右脳を刺激、脳の働きを良くして子どもの発想力を伸ばし、感性を豊かにする活動を目指す。

多くの子ども達にクリニカルアートの体験、実践を行う。

また、不登校や多動など問題を抱える子ども達に対しても、他地域では積極的にクリニカルアートが実践されており、この地域での実践も将来的には目指していきたい。

- ・ 松戸市を中核とした芸術性豊かな街づくりを目指します。

将来展望

1. 参加者からいただいた参加費を500円と設定し(特に材料費がかさむ物のみ1000円で行う)、初年度の活動では資金的な面の様子を見る。
2. 作品展示会を開催したり、フリーマーケットなどに参加して、参加者などから寄付された作品等の販売を行う。
3. 活動を通してクリニカルアートの効果を認めていただき、高齢者施設等の施設内プログラムとして、予算化していただく。
4. 会の趣旨に賛同していただける会員を増やしたり、寄付を募る。

将来的にはこのようにして、活動を継続させていきます。

事業の予算計画書

【収入】

申請者	(自己資金)	金額	積算内訳
	年会費 (4月～翌3月) 参加費 協賛金	82,000円	年会費 500円×14人=7,000円 参加費 500円×5人×10回=25,000円 参加費 1000円×5人×2回=10,000円 参加費 500円×10人×2回=10,000円 協賛金 30,000円
	自己資金合計 (a)	82,000円	
市	助成金申請額 (b)	100,000円	
	収入合計 (c) (a+b)	182,000円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の90%以内
2. 1事業あたり10万円以内

【支出】

交付対象経費	項目	金額	積算内訳
	報償費	76,000円	行事1回につき、臨床美術士1名につき一律2,000円の謝礼金
	消耗品費	40,000円	教材、画材、材料費など
	保険料	21,560円	ボランティア行事保険 560円×27=15,120円 ボランティア活動保険 460円×14=6,440円
	使用料	25,000円	公共施設等の施設使用料
	通信費	4,440円	切手代など
	印刷製本費	5,000円	印刷代
	対象となる経費合計額 (d)	172,000円	
	他 その	交通費	10,000円
	その他経費合計額 (e)	10,000円	
	事業費 (f) (d+e)	182,000円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

事業計画書

13

事業名	Jキッズ 子どもまつり事業
団体名	特定非営利活動法人子どもの環境を守る会 Jワールド

1. 事業目的と課題の現状及びその効果

現在、子ども達は少子高齢化が進み、地域の子供会などが消滅し、地域の方との交流、異年齢間での交流が減少している。また、社会性や考える力、生きる力、思いやりを失った子ども達が多く、犯罪の低年齢化や、登校拒否、学級崩壊などの問題も起きている。世代間交流を持つことで社会性を身につけ、且つ思いやりの心、自主性、社会性を身につけた次世代の子ども達を育てることで、地域を活性化させ、改善していけるものと考えている。

2. 申請理由

今現在弊事業の宣伝、普及は十分でないという課題を抱えている。この活動をより地域の方に知っていただき、ともに作り上げることで、地域の交流の活性化に貢献するとともに、子供達の自主性、協調性、創造性、社会性を身につけることに役立てたい。そのため、のぼり旗を作成、購入し、より効果的に宣伝したい。また、カラーチラシ、ポスターも作成し、今まで弊事業の活動を知らない地域の方々や、町内会、商店街、地域事業へのアピールを強める。

又、Jキッズの毎回平均参加者(小学生)は12~15名と少なく、減少傾向にある。その為、この子どもまつり事業を通してさらなる定着者を生み出したい。平成21年度の子どもまつり参加者は50名程度だったが、その後Jキッズに定着した参加者はほとんどいない状態で、参加者の増加は急務である。平成22年度の子どもまつり事業の目標受益者人数を前年度の2倍の100名とし、登録者の増加を目指したい。

3. 事業の内容、実施方法、スケジュール

- ・子ども達自らがゲームやイベントを考え、作り、提供する。実施日 2010年4月17日(予定)
- ・場所:新松戸SRCビル2階、3階、及びプレスカールひかりの子
- ・目標受益者人数100名とする。(平成20年度の2倍)
- ・異年齢の方々の協力のもと、実施する。地域の方にもアピールし、楽しんで頂く場とする。
- ・ゲームに参加する方にはゲーム券を購入していただき、その売り上げの一部は義援金として国際飢餓対策機構に寄付する。そのため、ゲームに参加する人は同時にボランティア活動に参加することとなる。
- ・広報活動として、チラシの作成やコアラTVへの取材依頼、町内会、商店街への宣伝、地域新聞への情報提供等を行う。

4. 事業成果の活用と将来展望

弊事業を効果的にアピールし、受益者人数が増加することにより、登録人数が増え、参加費収益が増える事が見込まれる。この事により、さらなる内容の充実と、活性化に役立ち、町内会や商店街、地域の事業などの協力を得て、三世代交流の場を広げ、さらに地域に貢献していけるものと考えている。

事業の予算計画書

【収入】

申請者	(自己資金)	金額	積算内訳
		ゲーム参加費	10,000 円
	自己資金合計 (a)	10,000 円	
市	助成金申請額 (b)	90,000 円	
	収入合計 (c) (a+b)	100,000 円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の 90%以内
2. 1 事業あたり 10 万円以内

【支出】

交付対象経費	項目	金額	積算内訳
		チラシ・ポスター等の印刷	30,000 円
	会場使用料・機材レンタル料	11,000 円	
	宣伝用のぼり旗作成・購入	25,000 円	
	保険料	10,000 円	100 人×100 円
	通信費	4,000 円	80 円×50 通
	消耗品費(ゲーム材料代)	20,000 円	
	対象となる経費合計額 (d)	100,000 円	
その他		円	
	その他経費合計額 (e)	0 円	
	事業費 (f) (d+e)	100,000 円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

事業計画書

14

事業名	医療セミナー
団体名	TEAMりぼん

1. 事業目的と課題の現状及びその効果

本会は、松戸市を中心とした市民を対象に医療や病気の正しい知識の啓発・普及を行うために活動を行ってきました。市内のがん検診率の低さに驚き、私達の活動(セミナー等)を通じて少しでも市民の医療知識の質の向上が図れば、検診率向上・病の早期発見にも繋がるのではないかとこの考えからです。そして松戸市の地域医療とも連携して活動していくことが、活動が活発化する契機となり、また目的の達成がより早期実現となる可能性が高まると考えます。

2. 申請理由

過去3回ほど自助努力でセミナーを開催してきましたが、資金確保という問題は大きな障害でした。この活動は継続してこそ意味のあるものであり、その場限りの活動ではあまり良い効果を望めないと感じています。検診率向上は行政にとっても大きな課題ですから、同じ目的を持って活動するのであればお互い協力し合うことでより大きな成果を得ることが出来るのではないかと、この思いから申請しました。

3. 事業の内容、実施方法、スケジュール

- ・市内の集客可能な場所(過去、松戸商工会議所・聖徳大学 10号館・森のホールで開催)で地域住民に対しセミナー等を年2回(平成22年6月・翌2月)開催予定です。
- セミナー開催時には検診(マンモグラフィー検診を来場者実費にて実施)も併せて行う予定。
- また、10月の松戸祭りにて検診を実施したいと考えています。

4. 事業成果の活用と将来展望

広報・集客・セミナーの内容などを変え、様々な形で検診を行うことにより、地域の方々の受け入れ易い検診環境とはどのような形態か検証し、そのデータを行政にフィードバックします。情報を活用して貰う事により、お互いに協力体制で展開できれば効率が良いと思われれます。市民の理解が深まれば、より地域に密着した活動が可能であり、広く深く浸透していくことで知識の習得の意識付け・習慣化の獲得が望ましいと考えます。

事業の予算計画書

【収入】

	(自己資金)	金額	積算内訳
	申請者	寄付金	35,610円
	自己資金合計 (a)	35,610円	
市	助成金申請額 (b)	100,000円	
	収入合計 (c) (a+b)	135,610円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の90%以内
2. 1事業あたり10万円以内

【支出】

	項目	金額	積算内訳
交付対象経費	講師料	80,000円	
	ポスター・チラシ	20,000円	
	会場使用料金	17,610円	
	対象となる経費合計額 (d)	117,610円	
その他	スタッフ駐車場代	3,000円	
	備品	10,000円	
	予備費	5,000円	
	その他経費合計額 (e)	18,000円	
	事業費 (f) (d+e)	135,610円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

事業名	松戸のアートな場所マップの制作
団体名	松風の会

1. 事業目的と課題の現状及びその効果

上野から始まる常磐線の芸大キャンパスラインの活性化を目指したJOBANアートライン協議会が設立され、今まで常磐線沿線で点であった文化拠点を線で結びつこうとしている。

芸大のキャンパスこそ無いが、学生寮が新松戸に在り、また松戸市にも多くのアーティストが在住し、個人のギャラリー等があることがあまり知られていない。それらの存在を広く知ってもらう為に、市内のギャラリーやアートスポットを紹介するマップが必要だと考える。

今まで、史跡や観光のマップは発行されているが、ギャラリーマップは発行されていない。また創作に関わるアーティストが自らマップを作ることによって、芸術性の高いマップが作られ、それ自体がひとつの芸術作品となる。

2. 申請理由

無料で配布する事によって、多くの人たちにマップが行き渡り、ギャラリー等の来館者が増える。マップで紹介するギャラリー等からの広告費の負担を軽減する。アイデアと労力は市民が担い、資金は行政が助成する事によって、協働の文化の街づくりとなる。

3. 事業の内容、実施方法、スケジュール

2010年

4月～

既存の博物館、美術館も含めた市内のギャラリー等の調査、市内在住アーティストの調査

6月：マップの原案作り、7月：マップ発注、8月：マップ完成

2010年9月～2011年3月

：各地域でマップを使ったアートイベントツアーの開催、ワークショップ・講座の開催

4. 事業成果の活用と将来展望

：人口48万の都市となった松戸市に、いま一番必要なのは、人と人との心のふれ合いである。団塊の世代がリタイアし、ようやく松戸都民から松戸市民として多くの人々が自覚し始めました。松戸市に生涯住み続けていく為に、松戸が豊かな文化の土壌となって、市民が自らくのアートを生み出すことの出来る環境作りが急がれる。

行政まかせにせず、市民も参画した協働の文化都市を目指す為に、マップで市民が身近に楽しむ事のできるアートスポットの紹介をし、マップを活用したイベントツアーの開催や、ワークショップの開催などを通して松戸の魅力の再発見、そして市民が協力し合い新たな創作活動を展開する事によって、心のふれ合う街作りになると考える。

事業の予算計画書

【収入】

申請者	(自己資金)	金額	積算内訳
	広告費	50,000 円	5,000 円×10 件
前年度繰越金	3,950 円	3,950 円	
	自己資金合計 (a)	53,950 円	
市	助成金申請額 (b)	100,000 円	
	収入合計 (c) (a+b)	153,950 円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の90%以内
2. 1 事業あたり 10 万円以内

【支出】

	項目	金額	積算内訳
交付対象経費	マップ作成印刷費 (デザイン含む) 300 冊予定	70,000 円	デザイン費20,000 円 印刷費50,000 円
	調査委託料	50,000 円	ギャラリー、アートのスポットの 調査委託料等
	対象となる経費合計額 (d)	120,000 円	
その他	郵送費等	10,000 円	マップ等を送付する費用
	事務費 (会議等)	23,950 円	マップ版下作りや打ち合わせに かかる費用
	その他経費合計額 (e)	33,950 円	打ち上げ、事務費等
	事業費 (f) (d+e)	153,950 円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。

事業計画書

16

事業名	まちづくりコラボサロン
団体名	まつどサロンネットワーク

1. 事業目的と課題の現状及びその効果

〈目的〉

生活上の課題をもつ、それを支援する人たちの会あるいは社会的・地域的に問題を解決したいと考える人同士の会などと、市内でサロンや居場所的な場を作っているところを結びつけて人の連携を作り、多くの人が集まってコミュニケーションを図り、それぞれが活躍できる場を増やすことで、地域の活性化を図る。

具体的には下記のようなものである。

- ①生活上の課題や悩みをもつ人たちを、同様の状況にある人たちや、それに対して理解ある人たちとつなげ、課題解決のための新しい動きを生み出すための支援、アドバイスの場を作る。
- ②地域資源としての場所（施設、提供される空間）、人材、技能、などを有効に活用し、地域に住む人たちが自ら人のつながりを作り、地域の活性化につなげていくきっかけを作る。
- ③社会に対して、何か自分が役に立つことをしたいという人たちが同様の意欲ある人たちと出会い、意見交換をし、連帯感を持つことで、その「思い」が活動へつながるための支援をする。

〈課題の現状〉

生活上の課題を抱えている人たちはなかなか社会に出ていきにくい実情があり、その受け皿的なものが地域にはなるべく多くあったほうが良いと思われるが、相談に対して1対1でアドバイスをするだけでは、同様の人たちと出会うチャンスは乏しく、人間関係を作るには至らず、活動意欲の継続も難しい。

また、サロンが必要な人、課題を抱えている人のためにサロンを開きたいと考えている人、社会のために役に立ちたいと考えている人が、それぞれ存在しているにもかかわらず、その人たちが出会う場が少ないか、あっても新しい動きを作るまでには至らない。つまりそれぞれ意思があっても、それが、生かされないままになっていることが多い。

〈効果〉

- ・孤独に生活上の課題を抱えている人たちが外に出て同様の人たちと出会い、話し合うことで勇気づけられたり、前向きに問題を考えていくきっかけを作る。
- ・地域の課題に対して受け身でなく、積極的な社会や地域への参画のきっかけになる。
- ・居場所づくりということの事例を示したり、課題を抱えた人たちの会への支援を進めることで社会のもつ問題の発信になる。
- ・市内の活動の会と、サロンの居場所のネットワーク作りによって、サロンの活性化を図り、課題解決の場を増やしていくことが可能になる。

2. 申請理由

定期的に行う会議の中でゲストスピーカーの推薦や要望があれば、招聘して、そのテーマを囲んで話し合う場、出会う場をつくる。テーマに関心のある人たちに来てもらい、会や活動を作るきっかけになりうるものとして開催する。予定では年8回ほどはミニ講演を開く予定としている。

また、春に立ち上げイベントを行い、年度末近くには成果発表会を行いたいと考えている。

これらの講師の謝礼などは、会員をこれから増やしていく現段階では補うのは無理なので、その部分の助成と、もう一つは、ネットワーク作りを大きな目標としているので、そのための広報に関しての部分の助成をお願いしたく、申請する。

3. 事業の内容、実施方法、スケジュール

〈事業の内容と実施方法〉

①定期的な会議の開催

月1回～2回の会議を定期的で開催する。(年間で通算20回を目安とする)

当面の内容は自分の技能や思いを活かしたい人、場所などの提供のできる人や団体、などが事業や活動を育てるにあたってのヒントやアイデア、持てるものを持ち寄っての活動の発展につなげるための会議とする。

場所は公共の施設を中心とした基本の場所を定めるが、会員の中での提供や開催場所の希望が出てきたときには検討して場を移して行う。

年20回の会議の中で最高8回程度、会員の中で参考にしたいと思う講師の希望があればゲストスピーカーとして招聘する。関心のある人が出会って会を作るきっかけとなることを期待している。

②イベントの開催

a. 立ち上げイベント

会の活動をアピールするために5月頃に立ち上げ記念イベントを行う。

「まちの中でいかに市民の力を発揮するか」、または「個人が持てる力を公共のために活かすことは生きがいに通じる」というような趣旨に沿った内容の講演会と、パネラーなどをよび、パネルディスカッション的なものをおこなう予定。

b. 成果発表会

年度末(1月～3月)に4月以降の活動の総括となるような、活動の成果の発表イベントをおこなう。

③会員への広報

会員には会議の進捗状況、提案の事例などを情報として流す。

④情報のネットワーク化

年度の後半に、会議のつながりから生まれた会、そのほかの活動事例、サロンや居場所の情報などをネットワーク化につなげるため、冊子を作製して配布、HPでも広報する。

〈スケジュール〉

H22年4月～H23年3月

通常会議（月1回～2回 20回程度）

- うち最高8回までゲストスピーカーを招聘してのミニ講演会を中心としたもの
- H22年5月 立ち上げ広報イベント開催
- H22年9月～H23年3月 HPなどの一般会員に向けて活動をアピールするためのHP立ち上げ 活動の内容などを冊子にまとめたものを配布、広報体制を整える。
- H23年1月～3月 成果発表イベント開催

4. 事業成果の活用と将来展望

〈事業成果の活用〉

生活の中で人が求めているものを、会や集まりとして形にすること、さらにそれを社会に発信することで、市民個人が抱えている課題、悩みを単なる個人の問題とするのではなく、共通の社会や地域の課題としてとらえなおして考える機会とすることができる。

なおかつ居場所的なもの（サロンなど）や集まりや活動を作ろう、という機運を高めて多くの人が出会い、コミュニケーションをとる機会を作り、まちと人の活性化につなげることができる。

また多くの立場の人の会と居場所にできる場の情報を冊子にまとめて配布したり、発信することで、地域に参画する人を増やし、問題に取り組んだり支援しようとする人たちを増やす。

〈将来展望〉

将来的に会議は（頻度は分からないが）定期的を開催していけば、「人と場を結ぶキーステーション」として、活動の発展へのヒントをもらえる場として、また、新しい出会いの場として、まちの市民活動の支援のひとつの場になりうると思われる。

出来上がったネットワークは、発信を継続していけばさらに大きな活動を生む可能性がある。

事業の予算計画書

【収入】

	(自己資金)	金額	積算内訳
申請者	会議参加費	60,000 円	20 回×15 人×@200 円
	イベント資料代	55,000 円	5 月イベント @500 円×80 人=40,000 円 成果報告会 @300×50 人=15,000 円
	自己資金合計 (a)	115,000 円	
市	助成金申請額 (b)	100,000 円	
	収入合計 (c) (a+b)	215,000 円	

【助成金申請額 (b) チェック項目】

1. 対象となる経費 (d) 欄の 90%以内
2. 1 事業あたり 10 万円以内

【支出】

	項目	金額	積算内訳
交付対象経費	会議会場費 (20 回分)	40,000 円	@2,000 円×20 回
	イベント会場費 (2 回)	10,000 円	@5,000×2 回
	印刷費	31,000 円	広報チラシ、ポスター作成
	講師謝礼	94,000 円	@3,000×8 回 (ミニ講演会) 30,000 円 (成果発表会) 40,000 円 (立ち回りイベント)
	消耗品費	20,000 円	会報印刷、インク代、消耗品
		対象となる経費合計額 (d)	195,000 円
その他	その他経費合計額 (e)	20,000 円	会議の茶菓、お茶代 @1,000 円×20 回
	その他経費合計額 (e)	20,000 円	
	支出合計	215,000 円	

※ 対象となる経費、対象とならない経費については、募集要項を参考にして下さい。